

## 第3章 景観計画の区域

### 1. 景観計画区域の設定：基本事項

- 1) 都市計画区域外の区域でも目的に応じて設定できる（町域全体でも、一部だけでも）
- 2) 区域を区分し、各々に景観形成基準を定めることができる（区域の重複はできない）
- 3) 景観法の制度の多くは、景観計画区域内でのみ活用できる
- 4) 景観計画区域以外でも活用できる景観法の制度：（略）

\*景観計画区域の設定については、段階的に区域の拡充・追加を図る考え方もある。

### 2. 景観計画区域の設定（提案）

景観計画策定委員会において、各委員から提示された「本山町の良好な景観」を類型化することから、次の景観計画区域（案）が抽出された。

即ち、①汗見川流域、②行川流域、③吉野川流域、④木能津川流域、⑤樫ノ川流域、の5つの河川流域を本山町の景観計画区域とする考え方である。

また、景観計画区域の範囲については次のように考えた。

景観計画区域を外れた範囲にある個別の建造物や樹木等は、重要景観構成要素として指定できない。景観法が必須の計画事項として求める「景観重要建造物又は景観重要樹木の指定の方針」を、町内の状況にふさわしい内容とするため、各委員から推奨された構成要素や集落をより多く包含できるように、広めの設定をしている。

なお、景観構成要素に付した番号等は、25 ページ及び 26 ページの図に記した番号等に一致する。また、番号を付した「建造物に類する景観構成要素」は建築等を現有するものに限定し、それらに準ずるものとして歴史的価値のある石垣等が残る史跡を加えている。除外した景観構成要素は、大半が遺跡・遺構にあたるが、その多くは本山町指定の文化財である。巻末資料として「本山町の史跡・文化財」を付した。

以下、各地区の特性など景観の価値、より良好な景観形成の方向など、選定の背景となった理由について述べる。

#### 1) 汗見川流域 - 計画区域面積 1,093.12ha -

##### 【景観の価値と景観形成の方向】

汗見川は町域の北部に連なる四国山地を水源とし、本山町の北西部を流域として、ほぼ一直線に南流して寺家地区で吉野川に合流する。その南北の流れは、幾重にも重なって四国を形作ってきた付加体の地層を横切りながら、深く刻み込んでおり、その流路や沿岸部では 40 種を超える変成岩を見ることができる。

汗見川流域の地質的特性に注目した地理学者等によって、古くから研究対象となってきた。近時においては、高知大学理学部を中心とする研究者たちと、流域住民が協働しながら、手に触れることのできる地質標本地を10数カ所選定してその顕彰に努めてきた。平成19年に天然記念物として高知県の指定を受けた「汗見川の枕状溶岩」は、その代表的な標本地である。

また、沿岸集落には変成岩を巧みに利用した石垣が築かれ、農が営まれている景観も散見することができる。汗見川の清流を彩るキシツツジ、サルスベリ、紅葉などとあわせ、地域固有の良好な景観を形成しているが、流域住民は「汗見川を美しくする会」を組織して、環境や景観の保全活動を進め、交流体験事業に積極的に取り組んでいる。

身近なところで地球の歴史に触れながら、多様な地質が生み出す景観を“学ぶ渓谷”として、その魅力を深く掘り下げていきたい。

**【範囲】**

汗見川の両岸から500mの範囲。汗見川の上流は桑ノ川の合流点を終点とし、下流は「3）吉野川流域」を除く範囲までとする。

**【景観構成要素】**

- (1)付けの淵、(2)亀岩周辺、(3)発電所跡と水路跡、(4)変成岩の石垣、
- (5)汗見川枕状溶岩、(6)桑ノ川の升淵、(7)桑ノ川の百日紅、(32)白髪神社

**2) 行川流域 - 計画区域面積 599.58ha -**

**【景観の価値と景観形成の方向】**

行川の流路の途中でその清流を取水して、上関・下関地区の水田を潤している下関井は、兼山遺構の一つである。また、県道262号「磯谷本山線」のうち下関地区を通る部分は、山内家の参勤交代の道の一部であり、沿道には往時の豪壮な構えをしのばせる旧山下家門が残されている。

行川沿いに北上する町道・林道は、広葉樹林の間を清らかに流れる行川に沿って遡上し、国内でも希少な天然桧の群生で知られる白髪山への登山ルートであり、西からの汗見川ルートとあわせ、東からの行川ルートとしてハイカーや登山家に親しまれている。また、流域の最奥部には、嶺北地方には数少ない温泉地である奥白髪温泉がある。

往古から土佐材を代表してきた白髪山の桧、秘湯奥白髪温泉、兼山遺構の下関井、参勤交代の道等々の歴史的遺産と、それらを背景として営まれてきた行川流域の人びとの生業は、昔ながらの良好な景観を形成している。今後、その活用が期待される場所である。なお、営業を中止している奥白髪温泉の現況は、良好な景観とは言いがたく、指定候補から除外した。

**【範囲】**

行川の両岸から 500m の範囲。行川の上流は新頃橋を終点とし、下流は「3）吉野川流域」を除く範囲とする。

**【景観構成要素】**

(8)下関井

**3)吉野川流域 - 計画区域面積 1,196.61ha -**

**【景観の価値と景観形成の方向】**

本山町のほぼ中心を東西に貫流し、四国三郎と呼ばれる吉野川及びその沿岸には本山町の縄文期から現代に至る歴史と、往古から栄えて今に残る社寺と巨木を擁する広大な社叢、多くの先人が織りなしてきた文芸・文化の足跡を示す景観構成要素が集積している。

吉野川左岸には野中兼山にちなむ帰全山公園を擁し、多くの人びとが四季折々の緑と花を楽しむ。右岸には嶺北地方の地域経済の中心地である本山市街地があり、由緒ある一群の商店・旅館などの重要な建造物も残されている。

本山市街地は吉野川に向かう緩い傾斜地にあわせて形成されており、坂道の街路とそれに沿って流れる疎水が印象的な市街地景観を形成している。

疎水の多くは野中兼山の遺構である本山上井・下井から水が導かれている。本来、農業用水として江戸期に開削された上井・下井であるが、その下流部では現在なお多くの水田を潤しながら、同時に市街地の景観に潤いを与えている点で、高い価値を有する景観構成要素である。

このように本山町を代表する景観構成要素が集積する吉野川流域エリアは、本山町のシンボルゾーンとして、高度に良好な景観の形成を目指すべきである。

**【範囲】**

吉野川の北岸では県道 262 号磯谷本山線及び県道 263 号の路肩から北に 500m の範囲とし、南岸では国道 439 号の路肩から南に 500m の範囲とする。

**【景観構成要素】**

- (9)山崎の集落景観（一群の民家と前畑）、(10)旧山下家門、(11)上関阿弥陀堂、
- (12) 下津野の田園風景、(13)帰全山、(14)吉野川の河川敷、(15)若一王子宮、
- (16)若一王子宮の社叢、(17)金剛寺、(18)元宇田氏別荘、(19)蔵造りの商家群、
- (20)高知屋旅館、(21)本山上井・下井、(22)十二所神社の大杉、(23)十二所神社、
- (24)本山城址、(25)土居屋敷跡（上街公園）、
- (a)本山東大橋、(b)渡津橋、(c)旧本山大橋、(d)本山大橋、(e)飛岩橋、(f)土佐本山橋、
- (g)吉田橋

## 4) 木能津川流域 - 計画区域面積 407.62ha -

## 【景観の価値と景観形成の方向】

地質学的には、本山町は三波川帯に位置するが、その中で吉野川北部がチャートなどを起源とする変成岩を主体とするのに対して、木能津川と櫛ノ川の流域である吉野川南部には御荷鉾緑色岩類が多く分布する。その分布域は御荷鉾帯と呼ばれるが、一種の破碎帯とみなされるほど地滑り地形が多く見られる。地滑りの引き金となる地下湧水が豊富にあり、太古からの地滑りの結果として、比較的緩い勾配の傾斜地が形成されることもある。このようにして、標高の高い山地にありながら豊富な水に恵まれ、耕作に適した地形を有することが、本山町南部の地質の特徴である。

木能津川流域も、その典型的な地形・地質であり、約40町歩といわれる棚田が展開している。かつては一望できた棚田群は、放棄水田跡に植えられた人工林によって、その眺望は遮られがちになっているが、今でも重要な農業地帯を形成している。

また、木能津川沿岸では、椎茸栽培が盛んであり、和紙原料となる自生楮の採取も地区住民の重要な生業となっている。棚田における農耕、椎茸の栽培、自生する和紙原料の採取といった昔からの生業が今に残るこの流域は、典型的な山間地の景観を示している。狭く閉ざされたような国道439号からの入口と、その奥に思いのほか開けた地形が、あたかも桃源郷のような佇まいの良好な景観を形成している。

安らぎにみちた山里の、昔ながらの景観を守り続けたい地区である。

## 【範囲】

木能津川流域のうち、棚田が多い小字の連担する範囲

## 【景観構成要素】

(26) 権代の棚田群

## 5) 櫛ノ川流域 - 計画区域面積 850.39ha -

## 【景観の価値と景観形成の方向】

北流して吉野川に注ぐ櫛ノ川は、その流域に本山町で最も広い農業地帯を育んでいる。上流部には本山上井・下井の頭首工もあり、本山町南西部の水田の多くは、言い換えれば本町の水田の大半は、櫛ノ川の恩恵を受けている。中でも、左岸の大石地区と右岸の吉延地区にかけて連担する、広大な棚田群は一見の価値がある。

標高700mにある最上部の棚田から、遠景として白髪山を望み、中景に大石・吉延の集落を見る眺望は、高知県内の棚田群の中で最も雄大な景観と言える。

平成25年、最上部の棚田近くにクラインガルテンが建設された。交流促進をもくろむ、農ある暮らしの拠点である。また、大石と吉延の眺望地点には、それぞれの地区住民の手によって展望台が設けられている。

この棚田群から日本一の食味を誇るブランド米“土佐天空の郷”が生まれた。この地区に在住する意欲的な生産者たちの努力の賜物である。恵まれた自然条件の中にあって、たゆまぬ営農が続いている檜ノ川流域にもっともっと光をあて、本山町を代表する農村景観として売り出していきたい。それに値する現在の良好な景観を、さらにさらに磨き上げる努力が欠かせない。そのためにも、檜ノ川流域の各地区住民の連帯と官民の協働による、より良好な景観の形成が求められるところである。

**【範囲】**

檜ノ川流域のうち、棚田が多い小字の連担する範囲

**【景観構成要素】**

(27)吉延の神社群、(28)吉延の古木群、(29)吉延の集落景観（崎山比佐衛の像を含む）、(30)大石・吉延の棚田群、(31)ミニ八十八ヶ所

<参考写真>



▲(10) 旧山下家門



▲(18) 元宇田氏別荘



▲(21) 本山上井



▲(23) 十二所神社



▲(28) 吉延の古木群



▲(5) 汗見川枕状溶岩

表 町内各エリアの景観構成要素

	景観計画区域					その他の区域
	1.汗見川流域	2.行川流域	3.吉野川流域	4.木能津川流域	5.樫ノ川流域	
a. 地形・地質	(1)付けの淵 (2)亀岩周辺 (5)汗見川枕状溶岩 (6)桑ノ川の升淵		(14)吉野川河川敷 (遊歩道を含む)			(イ)工石山 (ロ)赤滝 (ハ)白髪山
b. 遺跡・遺構	(3)発電所跡と水路跡		(24)本山城址 (25)土居屋敷跡 (上街公園)			(ホ)瀧山一揆跡
c. 公共施設		(8)下関井	(a)本山東大橋 (b)渡津橋 (c)旧本山大橋 (d)本山大橋 (e)飛岩橋 (f)土佐本山橋 (g)新本山橋 (21)本山上井・下井			
d. 建造物	(32)白髪神社		(10)旧山下家門 (11)上関阿弥陀堂 (15)若一王子宮 (17)金剛寺 (18)元宇田氏別荘 (19)蔵造り商家群 (20)高知屋旅館 (23)十二所神社		(27)吉延の神社・小祠群	
e. 樹木	(7)桑ノ川の百日紅		(16)若一王子宮の社叢 (22)十二所神社の大杉		(28)吉延の古木群	(ニ)白髪山の根下り桧 (ヘ)国見山のブナ林
f. 農地				(26)古田・権代の棚田群	(30)大石・吉延の棚田群	
g. 集落等	(4)変成岩の石垣		(9)山崎の集落景観 (12)下津野の田園風景 (13)帰全山		(29)吉延の集落景観 (31)ミニ八十八ヶ所	

景観構成要素の指定の方針及び指定候補については、第6章「景観重要建造物及び樹木の指定方針」に記述する。